

交通まちコミュニケーション概論

授業科目名	交通まちコミュニケーション概論	単位数 2 単位
英語標記	Introduction to traffic & urban communication	
授業コード	360213	
受講人数	15 人	
担当教員	森栗 茂一	
対象	全研究科大学院生、一部学部生、社会人（2名程度）	
開講時間等	第 2 学期＝月曜 2 限	
開講場所	吹田キャンパス：工学部（S1-312 講義室を手配中）	
キーワード	地域交通計画、中心市街地活性化、団地再生、マルチモーダルシフト、住民協働、	
授業の目的	〔目的〕過度な自家用自動車（以下、クルマと称す）依存は、地球温暖化促進のみならず、人と人とのコミュニケーションを阻害し、中心市街地空洞化、オールドニュータウンの衰退を招いています。神戸市住吉台のくるくるバスをモデルに、山口市、大阪市など各地の地域交通計画やアプローチの実際に学びつつ、中心市街地の衰退、少子高齢化やオールドニュータウンの登場のなかで、どのような土木施策がとられているのか総合的視点から議論・理解する。<到達目標>クルマ依存を排する交通を、まちづくりの観点から見る視点を学び、その議論のプロセス、政策デザインの初歩を習得する。	
講義内容	1 土木計画学への挑戦—都市生活誌から交通計画へ 2 交通工学のソフト技術—神戸住吉台くるくるバス【資料 2】【資料 3】 3 討論：くるくるバスのコミュニケーション技術 4 （ゲストスピーカー：秋山孝正先生）土木計画と密教 5 11/15 (G)（討論）土木計画と密教 6 11/22 （ゲストスピーカー：みなと観光バス松本社長）ビジネスとしての協働型交通まちづくり 7 11/29 (G)（討論）ビジネスとしての協働型交通まちづくり 2 8 12/6（ゲストスピーカー：土井勉先生）高速道路無料化を考える 9 12/13 (G)（討論）高速道路無料化を考える 10・11 12/18(土曜)（討論）：新しい公共を考える（学部生は 12/18 中之島センターで発表、院生は受講） 12 自動車の社会的費用【資料 1】とクルマ社会 13 討論：自動車の社会的費用 14 モビリティマネージメントと環境計画① 15 モビリティマネージメントと環境計画② 以上の順で講義をすすめる予定。状況により変更もありえる。 op 10/22 交通政策ラボカフェ等に参加をすすめる	
教科書	【資料 1】宇沢弘文『自動車の社会的費用』 【資料 2】森栗「くるくるバスがもたらした持続可能なオールドニュータウン」『交通工学』42、2007 年。森栗「交通を活かしたまちづくりと市民参画・協働・ボランティア起業」『都市問題研究』696、大阪市都市問題研究会、2008 年 【資料 3】森栗「交通計画における住民協働の有効性と展開手法」『運輸と経済』第 69 巻第 12 号、2009 年。	

参考書	ブログ：森栗茂一のコミュニティ・コミュニケーション（昨年度授業、資料を掲載）。専門職の高度教養なので、学部生は事前に必読。
成績評価	毎回、発言カードを書き討論する。回収してそれを評価する。出席 50%と議論 50%。
履修条件・受講条件	全研究科大学院生（社会人 2 名）、一部学部生（専門職として受講必要を考える学部生は、10/4 10 時人科棟玄関、または 10:20 授業配当教室で、要面談）
その他	社会人の受講を歓迎します。文系発想の土木計画に関心のある方の受講を歓迎します。土木計画系以外、学部生の受講を歓迎します。